



株式会社 オリジン

株式会社 オリジン

2024年 3 月期

第2四半期連結決算説明

2023年11月24日
証券コード 6513

目次



1. 概況説明
2. 第2四半期連結決算及び通期業績予想
3. 補足資料



◎ 独自性のある技術の強み

◎ 新たな価値の創造

◎ 一步ずつ前進

◎ 「常に改善」を

◎ ダイナミックケイパビリティの強化

代表取締役社長 稲葉 英樹



第2四半期の連結決算の連結経営成績（累計）

売上高 前年同期比22.5%の下振れ

- ◎ メカトロニクス事業においてギ酸還元真空リフロー炉(VSM)の新製品として投入したMPXシリーズや、光学レンズ貼合装置(OLB: Optical Lens Bonder)などの売上高が低調に推移

▶ 通期の売上高は前回発表予想を大幅に下回る見込み

営業利益、経常利益ともにマイナスを計上、通期業績予想を下方修正

- ◎ 資源・エネルギー価格や原材料価格の高騰などによる全社的な製造コストの増加
- ◎ 一部製品の品質向上に要するコストの増加
- ◎ 中国子会社での売上高の減少による利益率の低下
- ◎ メカトロニクス事業における技術開発拠点の整備に伴う研究開発費の増加
- ◎ 売上高の減少による固定費の回収不足等による影響

▶ 営業利益も前回発表予想を大幅に下回る見込み



中期経営計画の6つの変革、及び財務・株主還元方針の進捗状況

Change & Growth 2026

ニッチ・トップを目指してーモビリティ市場における技術開発の強化へ注力

6つの変革	事業を変える	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 新製品・新市場への展開 <ul style="list-style-type: none"> ・コンポーネント事業：トルクリミッタ製品の横展開（モビリティ市場、住宅設備市場等） ・エレクトロニクス事業：EV連携/スマエネ市場への展開（POCHA V2V等） ・ケミトロニクス事業：モビリティ市場以外への展開（建材市場、遊技機市場等）
	技術を変える	<ul style="list-style-type: none"> ◎ モビリティ市場における技術開発の強化、人とくるまのテクノロジー展等出展による拡販 ◎ カーボンニュートラルに向けた技術開発の強化（ハイサイクル塗料等）
	営業を変える	◎ 業界専門WEBサイト、広告等による製品PR強化
	カルチャーを変える	◎ 人権方針の策定と公表、健康経営の取り組み
	コスト構造を変える	◎ DXによる生産の自動化
	コミュニケーションを変える	◎ IR・広報の充実化（新製品の広告掲載、非財務情報の発信等）
財務方針 ・ 株主還元方針	成長投資	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コンポ事業におけるモビリティ市場向け生産ラインの増産投資 ◎ 事業部ROICによる資本収益性の分析・評価
	財務健全性	◎ 24年3月期第2四半期：自己資本比率51.4%
	株主還元	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 配当金（23年3月期年間40円、24年3月期第2四半期15円、年間30円予想） ◎ 自己株式取得（取得価格の総額625百万円）※2022年5月12日～2023年10月31日

持続的な企業価値向上に向けて「サステナビリティ経営推進」

人権デューディリジェンスに向けた取り組み

一人権方針の策定と公表、調達基本方針の改訂、調達パートナーへのアンケート実施

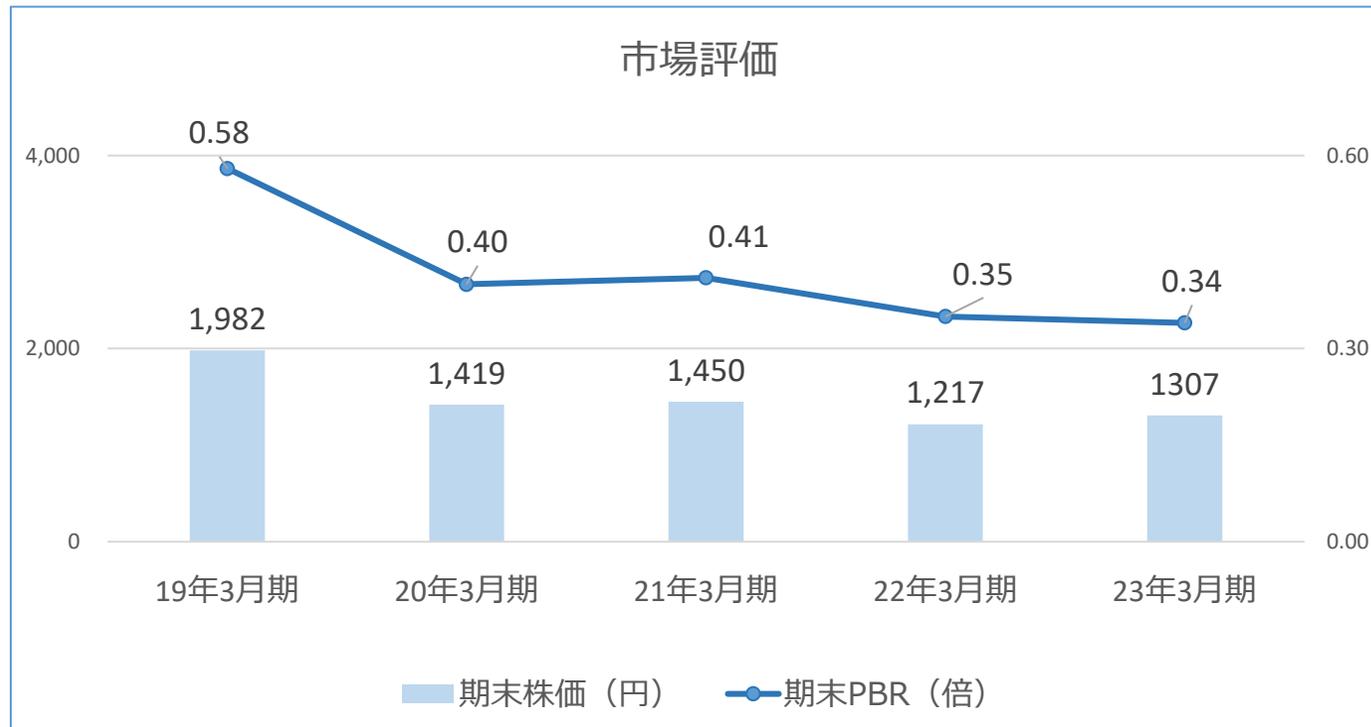
2024年3月期上期における5つのマテリアリティに関する主な取り組み

I 社会的課題の解決とオリジンの持続的成長	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 新製品・新市場への展開 <ul style="list-style-type: none"> ・コンポーネント事業：トルクリミッタ製品の横展開（モビリティ市場住宅、設備市場等） ・エレクトロニクス事業：EV連携/スマエネ市場への展開（POCHA V2V等） ・ケミロニクス事業：モビリティ市場以外への展開（建材市場、遊技機市場等） ◎ カーボンニュートラルに向けた技術開発の強化（ハイサイクル塗料等） ◎ モビリティ市場における技術開発の強化、人とするまのテクノロジー展等出展による拡販 ◎ 事業部ROICによる資本収益性の分析・評価
II ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 責任ある鉱物調達に関する「調達基本方針」「オリジングループが調達パートナーとして尊重する基本方針」の改訂とその公表
III 人権啓発の推進と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 人権方針の策定と公表
IV 製品の安全と品質	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自動車産業品質マネジメントシステム規格「IATF 16949:2016」を間々田工場で取得（登録範囲：インパネ用駆動部品・電動バックドア保持機構部品の設計および製造）
V 環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ◎ カーボンニュートラルへの実現に向けた第122期のScope 3の算定と公開 ◎ 各拠点の地域清掃活動、渡良瀬遊水地保全活動の参加等、社会貢献活動を継続



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

- ◎ 検討状況：資本収益性及び市場評価に関する現状を認識
事業部ROICによる資本収益性の分析・評価を実施
- ◎ 現状認識：PBRが低位に推移、資本収益性及び市場評価共に改善が必要と認識
- ◎ 開示時期：2024年5月予定



2024年3月期上期の取り組み

- ◎ 資本コスト（WACC、株主資本コスト）の推移検証
- ◎ 資本収益性（ROE、ROIC）の推移検証
- ◎ 市場評価（PBR、PER）の推移検証
- ◎ 事業部ROICによる資本収益性の分析・評価

2024年3月期下期の予定

- ◎ IR、株主還元等の取り組み検証による市場評価の分析・評価
- ◎ 資本収益性及び市場評価改善に向けた方針、施策等の立案

ステークホルダーの皆様へメッセージ 「変革」と「成長」と「常に改善」を



株式会社オリジンは、2023年度より新たな体制で船出致しました。これもひとえにステークホルダーの皆様のご支援と信頼のおかげであり、心から感謝いたします。

中期経営計画で掲げる「変革」と「成長」達成による業績の向上に向け進み始めましたが、中国経済の減速、原材料の高騰、当社の主戦場である産業設備市場の停滞等、取り巻く環境の変化により、非常に厳しい業績となりました。深くお詫び申し上げます。

今後に向けては、全社的な固定費の圧縮、利益率の改善などに努め、早期の黒字化を図ります。特に、メカトロニクス事業の開発・営業に注力し、事業の再構築を進めてまいります。

私たちはステークホルダーの皆様とのコミットメントに応えるために、お客様には価値ある製品やサービスを提供し、株主の皆様には健全な財務状態と成長を約束し、従業員には安全で健康的な職場環境を提供することを引き続き目指してまいります。

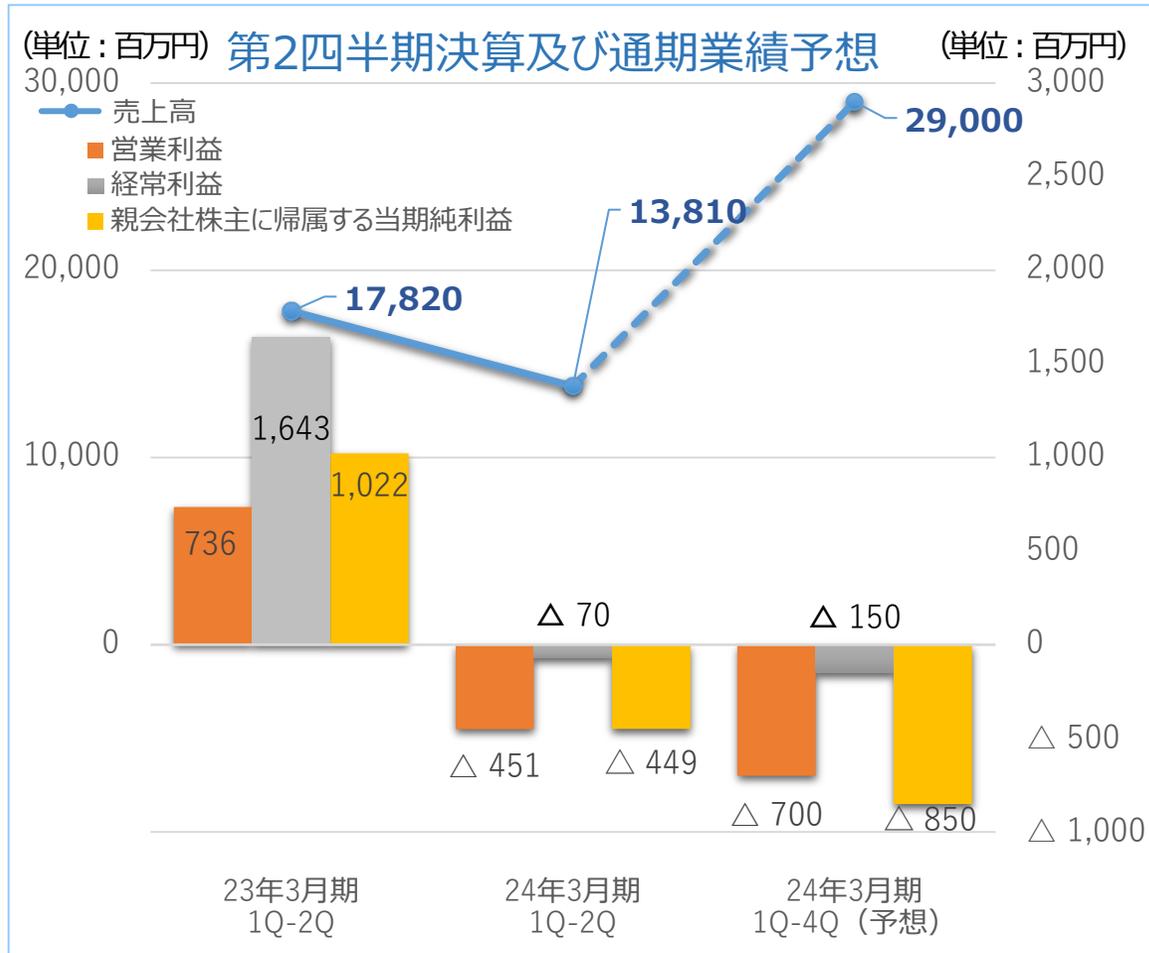
今後も、ステークホルダーの皆様とのパートナーシップを強化し、新たな価値の創出に向け進めていく所存です。引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2. 第2四半期連結決算及び通期業績予想

第2四半期決算及び通期業績予想

- ◎メカトロニクス事業においてギ酸還元真空リフロー炉(VSM)の新製品としてMPXシリーズを投入しましたが、市場の立ち上がりが想定より遅く、また、光学レンズ貼合装置(OLB: Optical Lens Bonder)も需要が減少したことにより、売上高が低調に推移し前年同期比大幅な減収。通期も当初予想に比べ大幅に下回る見込み
- ◎資源・エネルギー価格や原材料価格の高騰等による全社的な製造コスト増加、一部製品の品質向上に要するコスト増加、中国子会社での売上高減少による利益率低下、メカトロニクス事業における技術開発拠点の整備に伴う研究開発費増加、売上高減少に伴う固定費回収不足等の影響により、大幅な損失計上見込み



第2四半期決算ハイライト

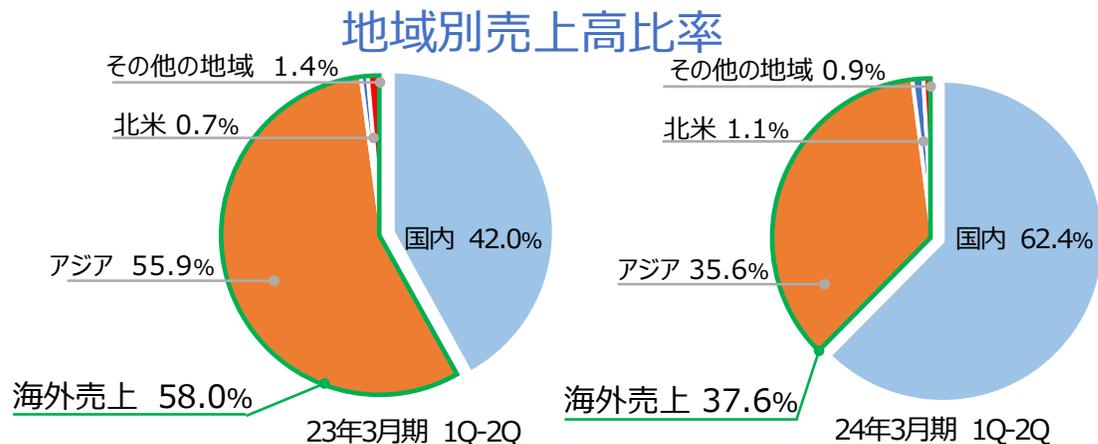
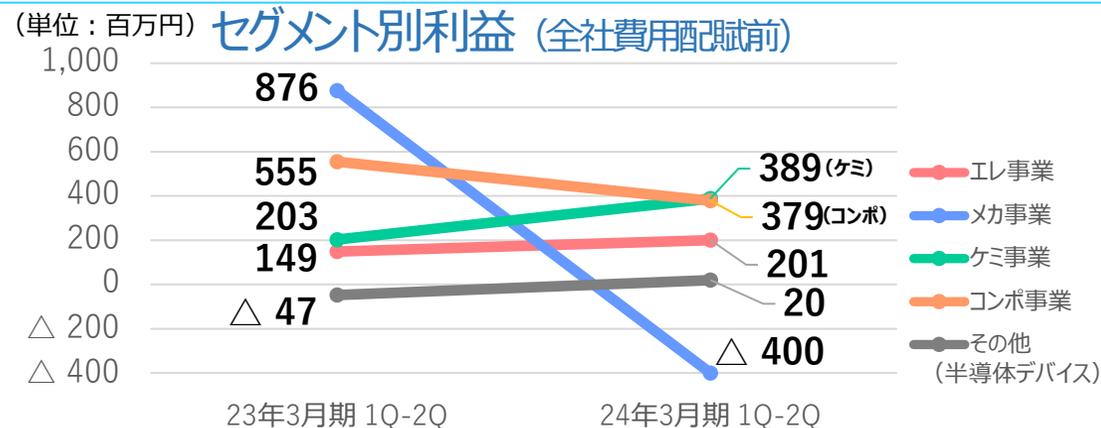
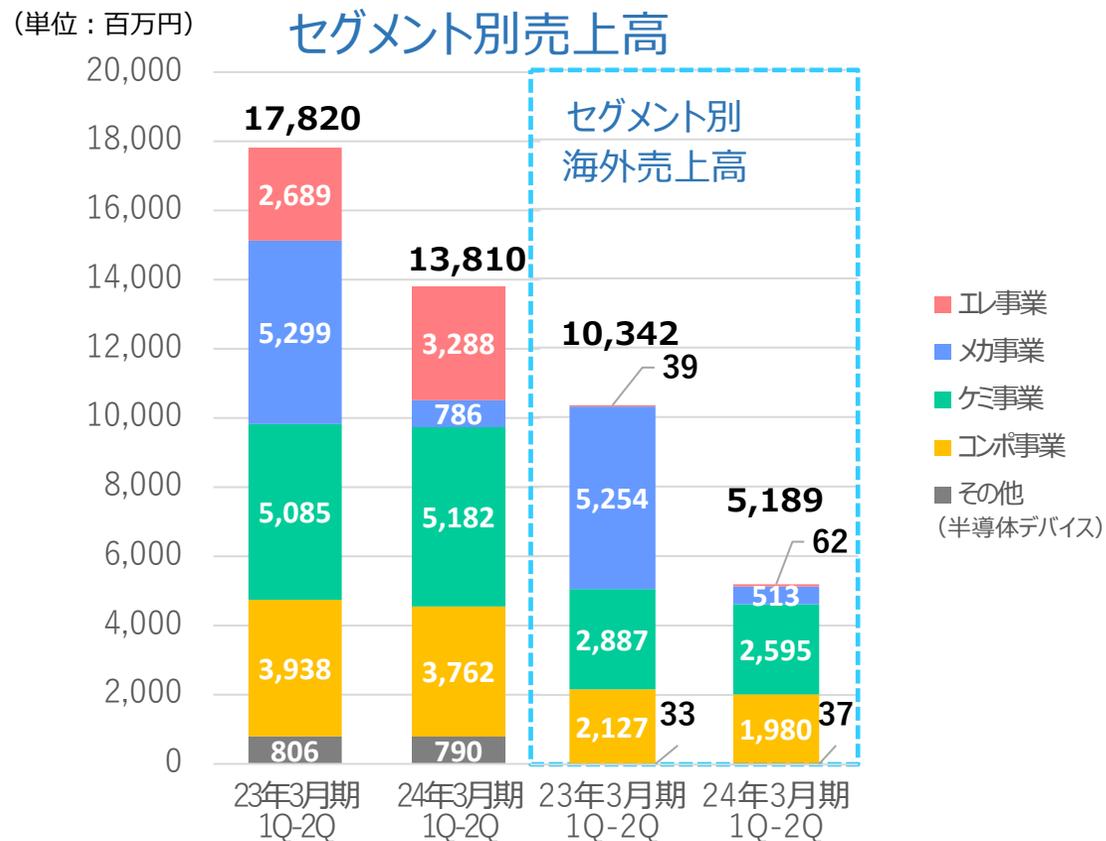
	23年3月期 1Q-2Q	24年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減率
売上高	17,820	13,810	△22.5%
営業利益	736	△451	—
経常利益	1,643	△70	—
親会社株主に 帰属する四半期純利益	1,022	△449	—
1株当たり四半期純利益	167.27	△76.96	

(単位:百万円)

(単位:円)

セグメント別状況

- エレクトロニクス事業 : 部品調達環境の改善により、半導体製造装置用電源等の生産数が回復し、増収増益
- メカトロニクス事業 : ギ酸還元真空リフロー炉 (VSM) の新製品としてMPXシリーズを投入も、市場の立ち上がりが想定より遅く、光学レンズ貼合装置(OLB)も 需要の減少により、減収減益
- ケミトロニクス事業 : モビリティ関係市場において中国をはじめとする海外市場では売上伸び悩むも、国内が好調に推移し、増収増益
- コンポーネント事業 : 産業機器関係における半導体製造装置の市場低迷の継続と事務機器関係の回復遅れが大きく影響し、減収減益
- その他 (半導体デバイス) : 産業機器関係の減少が影響し、減収増益



キャッシュ・フロー、設備投資、減価償却費、研究開発費

営業活動によるCF : 棚卸資産の増加額、法人税等の支払額

投資活動によるCF : 有形固定資産の取得による支出

財務活動によるCF : 長期借入れによる収入

24年3月期1Q-2Qの主な設備投資 :

メカトロニクス事業の技術開発拠点の整備

売上高研究開発費比率 :

研究開発費増加及び売上高減少に伴い2.0%増加

キャッシュ・フロー

(単位 : 百万円)

	23年3月期 1Q-2Q	24年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△681	△299	382
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,597	△200	1,396
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,107	1,757	2,864
現金及び現金同等物の 増減額 (△減少)	△2,726	1,471	4,197
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,028	8,048	3,019

(単位 : 百万円)

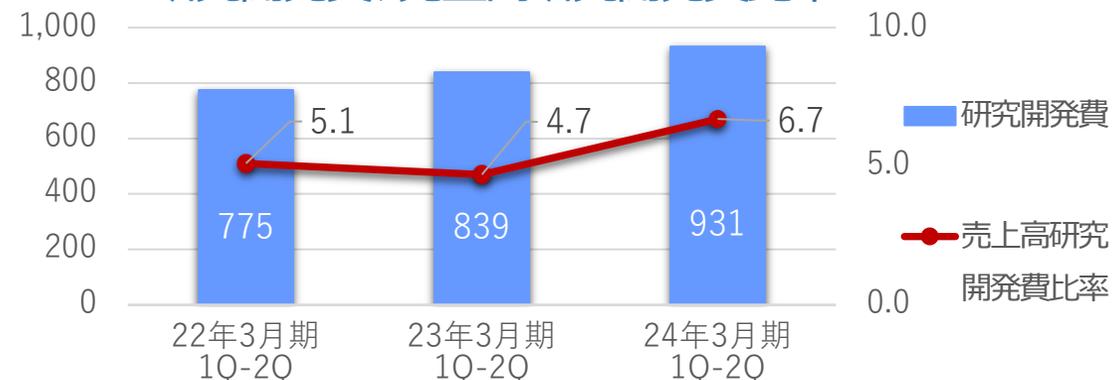
設備投資、減価償却費



(単位 : 百万円)

研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位 : %)



貸借対照表、配当の状況

流動資産減少の主な要因 : 現金及び預金14億2千万円の増加、電子記録債権8億3千2百万円、仕掛品3億5千4百万円

流動負債減少の主な要因 : 長期借入金19億6千万円の増加

純資産増加の主な要因 : その他有価証券評価差額金8億2千万円の増加、為替換算調整勘定2億5千4百万円の増加

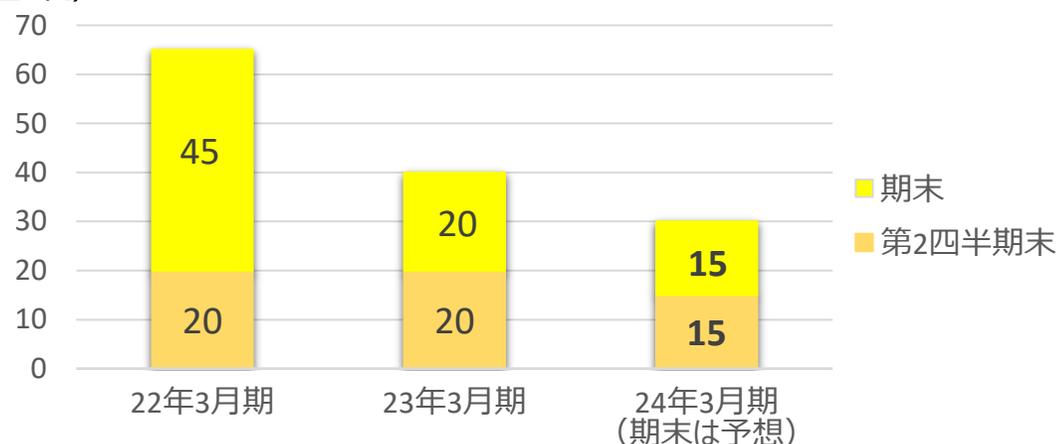
貸借対照表

(単位:百万円)

	23年3月期末	24年3月期 2Q末	前期末 増減額
流動資産合計	27,543	30,065	2,521
固定資産合計	16,586	17,778	1,191
資産合計	44,130	47,843	3,712
流動負債合計	9,123	10,513	1,390
固定負債合計	8,353	10,475	2,122
負債合計	17,477	20,989	3,512
純資産合計	26,653	26,853	200
負債純資産合計	44,130	47,843	3,712
自己資本比率	55.0%	51.4%	△3.6%

配当の状況

(単位:円)



24年3月期の配当については、業績予想の大幅な下方修正を踏まえ、誠に遺憾ながら、前回予想より10円減配し1株当たり年間30円を予定。

(第2四半期末の配当については、2023年11月10日開催の取締役会にて1株15円で決議 期末の配当金については、1株15円を予定)

〈自己株式の取得〉2023年5月12日決議 (上限) 300,000株 400百万円

取得期間 2023年5月15日~2024年3月31日

2023年9月末時点 144,900株 184百万円

2023年10月末時点 184,700株 233百万円

- ◎ 当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ◎ 当資料に掲載しております情報は、2024年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。
- ◎ 業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。
- ◎ 当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口

株式会社オリジン

経営企画本部 IR・サステナビリティ統括

ir@origin.jp

080 3122 8894



3. 補足資料



エレクトロニクス事業

モビリティなどの成長市場、重要な産業市場に向けた高付加価値電源の開発

- ▶ EV自動車普及に貢献するEV充放電製品の新規開発 (POCHA V2V*)
- ▶ 高精細化が進む半導体市場を支える製造装置向け高付加価値電源の拡充
- ▶ X線等医療診断装置向け高品質電源の拡充

*Vehicle to Vehicle

- ・ EV充放電ソリューション向け絶縁型5kW双方向DC/DCコンバータ
- ・ EV充放電器 POCHA V2V

メカトロニクス事業

VSMの販売／生産強化で成長と収益力強化

- ▶ 今後需要が見込まれるパワー半導体や積層型LSI製造関連市場向けの開発・営業に注力
- ▶ 中国生産開始でコストダウン推進中
- ▶ 国内／中国向け受注販売実績増加中

精密塗布／貼合技術の深化

- ▶ 米国IT大手や中国大手メーカーからの受注
- ▶ 欧州拡販推進で受注に向け活動中

・ 大型曲面ディスプレイ製造用貼合装置

ケミトロニクス事業

既存市場での売上拡大

- ▶ モビリティ市場（主に自動車）の回復により、前期比112%の売上

カーボンニュートラルを意識した塗料開発

- ▶ CO2排出削減に貢献するハイサイクル塗料および非石油由来塗料を製品化
加えてリサイクル塗料の開発およびリユース材料使用にも着手

利益率向上と海外拠点との連携強化

- ▶ 価格再設定やコストダウン活動により原価率改善（国内では81.7%→75.6%）

- ・ 光学機器用迷光対策無反射塗料
- ・ 車載レーダー用電波透過塗料
- ・ 基板用絶縁防湿塗料

コンポーネント事業

電動モビリティでのニーズが拡大 ～車載用トルクリミッタ～

- ▶ 生産自動化による利益率向上
- ▶ 中国生産拠点にて「IATF16949」取得へ

- ・ パワーバックドア用2段式トルクリミッタ
- ・ 内装アクチュエーター用安全機構
- ・ サイドドア向けトルクリミッタ



EVスマエネ市場向け電源【POCHA V2V】

EV車種ごとの接続確認試験を実施し、本格販売へ



※ターゲット：ロードサービス事業者、商用車ユーザー、ディーラーなど
※販売開始：2024年4月予定（販売目標：来年度500台）

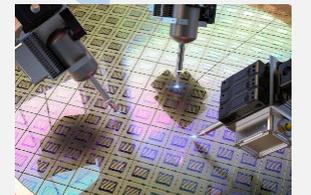
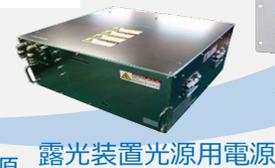
2035年までにガソリン車新車販売を禁止すると政府が発表し、バッテリーの性能向上により航続距離が延びるなど、EV車の市場占有率は増加が予想されます。一方でEV車のロードサービス件数のうち駆動用電池切れ（いわゆる電欠）は10%程度を占めます（*）が、EV車の増加に伴って件数は増加傾向にあり、EV車の電欠対策は急務となっています。*ロードサービス会社調査

POCHA V2Vは、EV充電器が設置してある施設までの搬送（レッカー車搬送）に依らず、その場で電欠から救済する製品です。



半導体製造装置向け電源

高精細化に対して、高安定度化、高出力化、高周波化を追及した電源を拡充



医療診断装置向け電源

一般撮影から循環器の手術まで
広い領域で、小型・軽量化かつ
高機能化を追及した電源を拡充



ニッチ・トップと成長戦略

-メカトロニクス事業-

◎VSM：ギ酸還元真空リフロー装置の競争力の強化による拡販

- パワー半導体製造装置市場の拡販（グローバル展開）
- 積層型LSI製造装置市場向け製品の投入

◎OLB：光学レンズ/DB車載・産業用ディスプレイ貼合せ技術の深化による拡販

- XR関連市場への拡販（VR、AR市場）
- 車載用ディスプレイの多様化に対応した製品の供給
- 精密塗布/貼合せ技術による市場開拓

◎事業構造改革の推進：基礎技術、生産体制の確立

事業構造改革

★ターゲット

- 市場優位性のある製品開発
- 原価低減による市場価格優位性及び収益力強化
- 顧客への商品提案と安心感提供（サンプル作製）

★取組むべき課題

- 事業拠点の再編→機能化 デモルーム サンプル提供（本社+朝霞開発センター+熊本デザインルーム+中国・蘇州）
- 生産拠点の拡充→国内生産+海外生産の2極体制確立化
- 営業サービス体制強化



VSM:ギ酸還元真空リフロー炉

★ターゲット

- パワー半導体製造工程（MPXシリーズ）への拡販
 - ▶国内需要対応 + グローバル展開
- 積層型LSI製造工程向けへ製品投入（MPWシリーズの製品化）

★取組むべき課題

- 市場競争力UP（国内/海外の2面製造体制）
- 競合製品との差別化→市場での実績構築
- ウェハバンプ形成技術
- 営業体制・サービス体制の強化

MPXシリーズ



OLB：光学レンズ貼合装置 & DB：ディスプレイ貼合装置

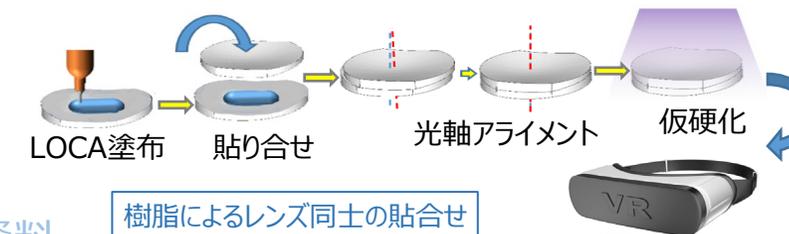
★ターゲット

- OLB ▶ XR（クロスリアリティ）関連市場（VR/AR）
- DB ▶ 車載・産業用ディスプレイ市場

★取組むべき課題

- 精密塗布/貼合技術の向上
- 総合商品力の強化
- 営業体制・サービス体制の強化

OLB（貼合装置）



ニッチ・トップと成長戦略

-ケミトロニクス事業-



新たなソリューションのためのコラボレーション

—モビリティ市場に加えて建材市場、遊技機市場への挑戦—

モビリティ市場

主力であるめっき用塗料の市場維持とEV車等から生まれる新市場への進出

情報家電市場

既存メーカーへの再アプローチと新市場開拓

産業設備市場

建材用ステンレス材中心に新規採用が増加

趣味娯楽市場

遊技機市場への深耕、拡販継続

化粧品市場

主力である蒸着塗料に加え非蒸着分野への進出

▶これらの活動を通じて
前期を上回る計画達成へ

塗料と塗装技術を組み合わせた
これまでにない新しい形のコラボレーション出展



第52回店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2023」

ニッチ・トップと成長戦略

-コンポーネント事業-

コロナ制限緩和、あらためて
Worldwide での取組み強化！

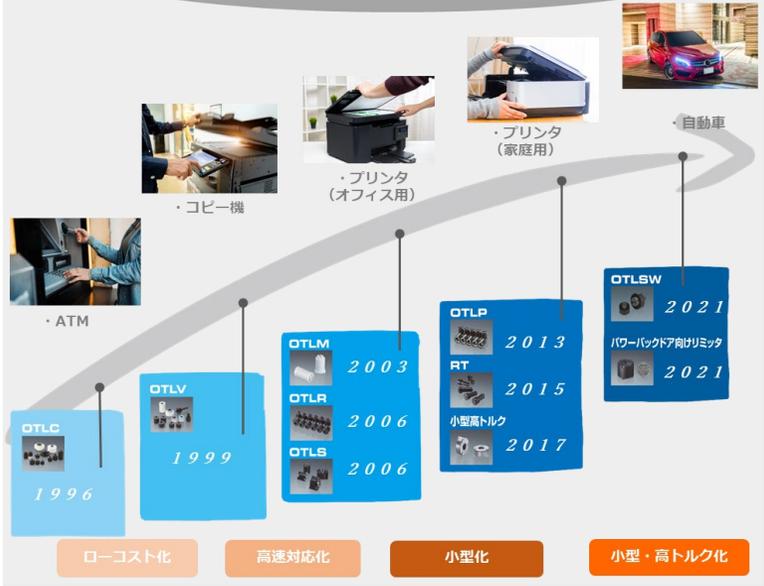
EV市場の拡がりに伴いニーズが増え続ける『OTLシリーズ』。電動部の安全性に貢献し、より快適に、より環境に配慮した自動車業界のEV化を支えるべく、独創的な製品を提供。



トルク高精度化・高耐久化・過酷環境への適合



世の中の課題と共に進化し続ける
ORIGIN Torque Limiter



成長分野



- ・ IATF16949認証取得
- ・ 日本国内での生産開始
- ・ 上海拠点でのIATF取得
- ・ 中国生産開始
- ・ 世界のリーダー企業への拡販
- ・ 生産自動化推進

新市場



- ・ 新製品開発
- ・ 新たな分野への挑戦
- ・ 市場ニーズに適合
- ・ 住宅設備,余暇市場へ展開
- ・ 複合化製品の開発
- ・ 世界市場への拡販

従来分野



- ・ 生産効率向上
- ・ 品質体制の強化
- ・ 変化する顧客ニーズ対応
- ・ セルフレジ向け製品展開
- ・ 業界再編への適応
- ・ 欧米中韓企業へ拡販

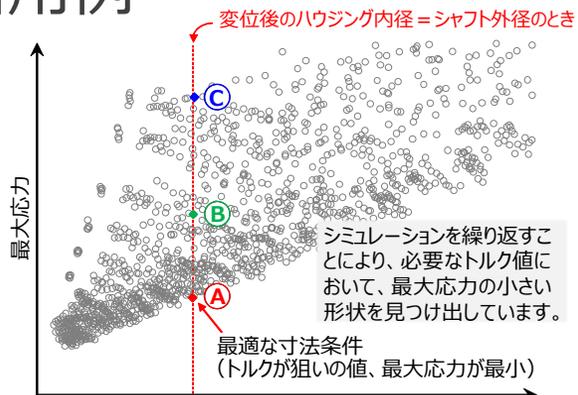


- ◎ 各種製品への様々な要求に応えるため、シミュレーション技術を活用して品質の高い製品設計や性能向上を目指した製品開発に取り組んでいます
- ◎ ディープラーニングを活用した画像認識技術の開発取り組みを外観検査の自動化に応用し、当社生産設備の効率化を進めています

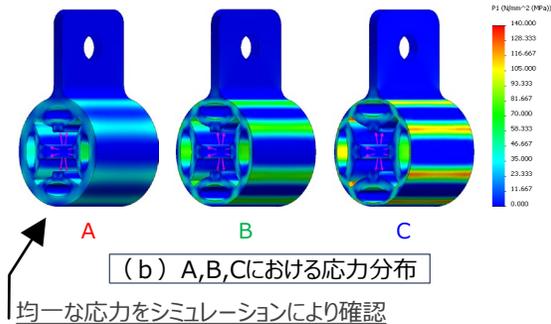
シミュレーション技術の活用例

モニターやタッチパネルの角度調整部に当社のトルクヒンジが使われています。シミュレーション技術を開発品の設計に取り入れることで、短時間で最適なトルク設計を得ることが出来ています。

※トルクヒンジ：任意の角度で固定できる蝶番。ノートパソコンやプリンタなど身の回りの製品に使われています。

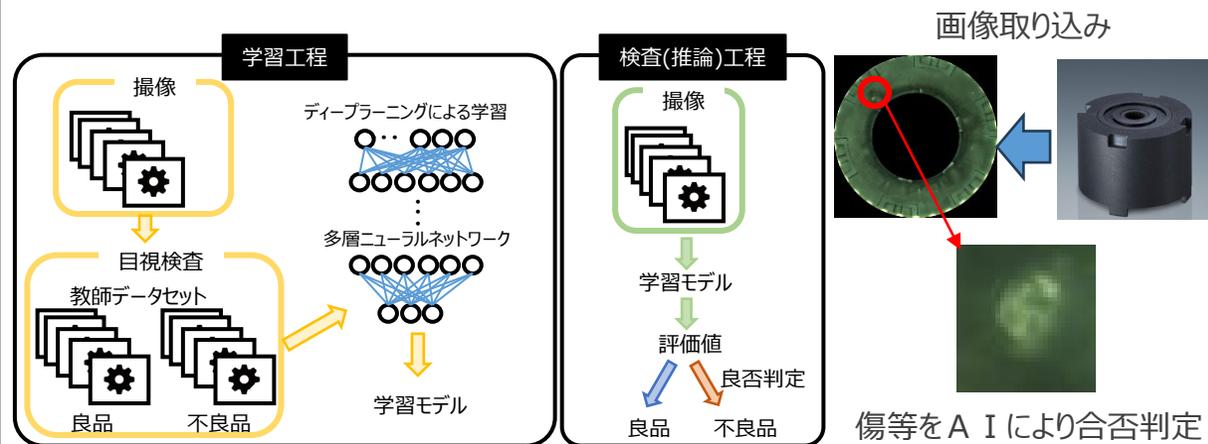


変位後のハウジング内径
(a) 各条件での最大応力



AI 技術の活用例

トルクリミッタを対象に、部品の外観をデジタル画像化し、この画像データからディープラーニングによる学習モデルを構築して外観不良の検出につなげていきます。トルクリミッタの生産ラインへの導入を行い、外観検査工程の自動化・効率化を進めます。



全社注力市場への取り組み

- ◎ 全社注力市場への事業部連携での取り組みにより、モビリティ関連を中心とした積極的なPR活動を展開



2023年1月出展
第15回 オートモティブ ワールド



2023年5月出展
BICYCLE-E・MOBILITY
CITY EXPO 2023

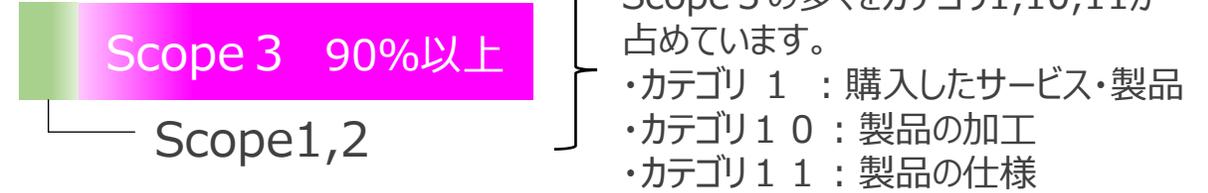
2023年5月出展
人とするまのテクノロジー展
YOKOHAMA



カーボンニュートラルに向けた技術開発

- ◎ 当社グループ(サプライチェーン含む)のScope 3のCO2排出量は90%以上であり、その削減が課題
- ◎ CO2排出量の少ない原材料、製品加工時、使用時によりCO2排出量の少ない製品開発を推進

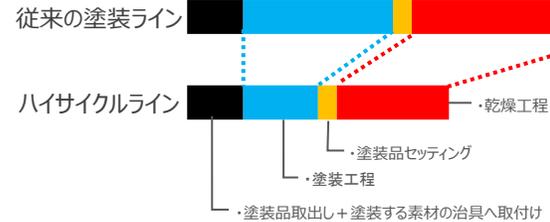
当社のScope 3の状況



開発取り組み事例

- ・速硬化（ハイサイクル）技術
 - ・非石油由来塗料の開発
- カテゴリ10の対策：
製品加工時のCO2排出量削減

○ 塗装ライン工程



速硬化技術による乾燥工程の短縮/低温化に加え、塗装条件のシンナー速乾化、設定膜厚の薄膜化による塗装工程の時間短縮を図り、既存塗料へ応用展開しています。

- ・メカニカルな機構のみで機能する部品
 - ・電源の高効率化に向けた開発
 - ・装置使用環境の省エネルギー化
- カテゴリ11の対策：
製品使用時のCO2排出量削減

 Change & Growth 2026

